

士建士発
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 様

士幌町長 小 林 康 雄



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付国道企第37号を以て依頼のありましたこのことについて別紙のとおり報告いたします。

建設課建設グループ（土木公園）
担当：亀野
TEL 01564-5-5215（建設課直通）
FAX 01564-5-2860
E-mail kamento@shihoro.jp

◆徹底的な無駄遣いの排除をしつつ必要な道路整備。

- 施設の長寿命化によるライフサイクルコストの低減・環境負荷の低減。

◆成長力確保、競争力アップのための基幹ネットワーク（高速ネットワーク）の整備と有効活用

- 迅速かつ円滑な物流ネットワークを実現し、国際競争力を強化する道路整備。
- スマートインターチェンジの増設及びアクセス道路整備の促進と高速料金の引き下げ。

◆既存ストックの有効活用

- 利用者への情報提供の充実、施設構造物の長寿命化。

◆道路財源の一般財源化に伴う地方の財源の確保

◆地域間格差の解消

- 地域医療格差の解消を図る道路整備。

◆地方の生活者に対する安全安心の確保

- 耐震・豪雨対策の推進と冬期道路ネットワークの確保。
- 災害時のリダンダンシーの確保。
- 幹線道路の交通事故対策。
- 通学路等における安全安心な歩行空間の創出。（自転車通学含む）

◆地域の活力に繋がる道路整備

- 生活幹線道路ネットワークの形成。
- 道路構造令の弾力的運用等の推進。
- 地域間競争力の強化。

○現状

1. 生活道路の改善について

北海道は、広大な面積で、離散型集落を形成しているため面積に比較すると道路密度は低く、これまで幹線道路を優先的に整備してきた。このことから均衡ある整備を望む住民から未整備の生活道路に対する多くの不満が寄せられている。

2. 費用対効果について

効果の前提としては、交通流の推計として交通量・走行速度・路線条件、便益の算定として走行時間短縮便益・走行経費減少便益・交通事故減少便益の総便益と総費用を算定し費用便益分析を行っており道路交通量により費用対効果が大きく左右される評価方式となっており、地域的要素を含む効果が望めない現状にある。

3. 歩道の整備について

現在の歩道整備採択基準では、児童数の不足により必要な歩道整備が出来ない。また、積雪寒冷地の歩道は、現在の構造では凍結などによる損壊が著しく、併せて、冬期間、歩道利用者が通行するのに幅が狭く危険で、凍った歩道面での転倒による骨折事故が増加している。

4. 2次3次の高次医療について

5. 災害時に必要な緊急輸送路の確保について

○課題

1. 生活道路の改善について

生活道路は交通量が少なく現在の補助採択基準に当てはまらないため自力で整備する以外に方法がなく財源確保が難しいため整備が遅れている。今後、緊急時の対応が可能となるインフラ整備、ライフラインの整備を活用した道路空間に求めるまちづくりが望まれる中、補助採択基準の緩和が必要であり、道路密度については、全国一律の基準で算定するのではなく、地域性を考慮する必要がある。

2. 費用対効果について

本町においては、第一次産業の農業が基幹産業で、消費者の「食の安全・安心」への高まりから、生産物の品質保持と賞味期間の確保に繋がる走行性や輸送時間の短縮は、国際競争に打ち勝つ農業に欠かせない条件であります。また、他町村からの流れが多く、屋間人口が定住人口の1割程度増えている現状であり、特に農畜産物加工施設、農業関連施設で働く人たちが多く、道路整備を行うことにより経済的効果が大きいことから地域的要素を加味し、社会・経済的な側面から事業の妥当性を評価する手法の高度化が必要である。

3. 歩道の整備につて

地方も少子化であることから、次世代を担う子供たちへの対策として歩道整備が必要である。また、地方の児童は、通学に自転車を利用している、安全に通行できる自転車道を整備する必要がある、併せて、歩道の凍上抑制層厚の増嵩をする必要があり、加えて、除排雪のレベルアップにより、人身事故を抑制する必要がある。

4. 2次3次の高次医療について

高次医療を受診するためには、これらの施設を利用するための道路網の整備が必要である。

5. 災害時に必要な緊急輸送路の確保について

国道 274 号士幌防災事業を早期に整備し、災害時の緊急輸送道路を確保する必要がある。

本町の公共交通は、全て自動車輸送で、産業経済は基より住民生活にも広く自動車普及している。このことから、道路網の整備は地域発展のため極めて重要な役割を担っています。

本町の道路網は、主要幹線道路として町の中心を縦横する国道2路線（241号・274号）を骨格とし、道道9路線、住民生活に密接に関わる町道で形成されている。近年、道路を取り巻く周辺環境、沿道土地利用の様態、環境保全への関心の高まりなど、住民ニーズが大きく変化する中、求められる道路網の整備については、国道274号士幌防災事業を骨格とした災害時の緊急輸送ネットワークの早期整備により、「防災に強いまちづくり」をはじめとし、基幹産業を支える農畜産物輸送ルートを確保するため、高速交通ネットワークにアクセスする地域幹線国道の整備と併せ、道路空間を利用したシーニアイ・勝平野・山麓ルートの指定を目指し、都市機能の集積した中心部と点在する集落部分とが連携し、都市経営の効率化、環境保全、自立した生活圏の形成を作り上げるため、より一層の整備を進める必要がある。

- ◆国道274号士幌防災事業による災害に強いまちづくり」を推進する。
- ◆地域の活力に繋がる道路整備。
- ◆道路空間を生かした「車と人」に優しい道づくり。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

北海道士幌町町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
地域活力の向上	◆高速道路ネットワークの整備 ○北海道横断自動車道 ○高規格道路 ○防災・減災対策	◆高速道路ネットワークの整備 ○大規模地震の発生する恐れの高い十勝地方における地震対策は必須の条件である。 ○大規模地震発生時の被害の軽減、円滑かつ迅速な救急活動、応急活動を確保するため緊急輸送道路の耐震補強。 ○国道 274 号士幌防災事業の早期完成。	
総合的な交通安全対策及び危機管理強化	◆自転車道 ○自転車事故の減少を目的に、自転車と歩行者を分離 ○自転車レーンや自転車道ネットワークを整備 ○自転車利用の促進により、低炭素社会の実現を目指す	◆自転車道 ○走行空間を明確化することによって、自転車走行の快適性と通行空間の確保。 ○自転車と歩行者の衝突の危険性の軽減。 ○自転車利用促進は省エネ型ライフスタイルとして温暖化防止、移動用エネルギーの抑制に繋がり自転車利用促進に係る費用対効果が大きく見込める。	
少子・高齢に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	◆道路空間の有効活用 ○人に優しい道路空間の形成	◆道路空間の有効活用 ○道路構造令の弾力運用により、人に優しいみちづくりを実施。	